

# 山びこだより

第4号 2012.2



兵庫県指導林家会会長の春名善樹氏の茅葺き邸宅にて

## 1 平成23年度「福岡県フォレスト・フレンズ」に参加して

福岡県フォレスト・フレンズ事業は、県内林業後継者育成のため、県外の優れた林業技術と、その地域の交流を通じて、新しい技術や知識を習得し、福岡県林業の振興を図る目的で、県からの補助を受け本会が実施しています。

本年度は、兵庫県林業の視察研修及び林業研究グループとの交流を行いました。

(1) 期 日 平成23年11月7日(月)～11月9日(水)までの2泊3日

(2) 参加者数 平川光臣 団長 他31名

### ●協同組合兵庫木材センター（宍粟市一宮町）

素材・製材・合板・工務店などで組織する協同組合で、最新の製材機械に素材の選別機能を持った集積場を併設し、製品の乾燥から機械による等級区分までを一貫して行っており、森林所有者への利益の還元と、外材に対抗できる県産木材供給システムづくりを目指している。

### ●小林 <sup>おん</sup>温 氏（宍粟市一宮町）

路網整備で「家族経営の自伐林業」、道づくりの先生として有名な大橋慶三郎氏直伝の壊れにくい作業路を100m/ha以上作り、家族で高性能林業機械を使い間伐による持続的な経営を展開している。

### ●春名 <sup>はるな</sup>善樹氏（兵庫県指導林家会長） 宍粟市千草町

兵庫県指導林家会の会長として兵庫県林業を牽引。林業経営は、長伐期大径材生産を目指し、路網を整備するとともに、良質の間伐(択伐)材で経営を維持されており、出荷された材は市場において「春名ブランド」として高値で取引されている。

## ●北はりま森林組合の提案型集約化施業（多可郡多可町）

森林組合の役職員が一体となって、提案型集約化事業に積極的に取り組んでおり、「人材の育成」、「団地設定のための集約作業」、「道づくり」を行っている。

## ●兵庫県指導林家会、兵庫県林研（加美林業研究クラブ）との意見交換・交流会

兵庫県指導林家会は、指導林家認定者86名及び青年林業士認定者14名で構成され、会長が春名善樹氏で、高性能林業機械を使った作業研修会や壊れにくい道づくり研修等を行い、兵庫県の林業を牽引する組織となっている。また、加美林業研究クラブ（中川武会長）は、会員16名で構成されており、GPSを使って境界の確定、造林補助金の申請、作業路の開設等の活動を行っている。

## ●丹波マツタケの栽培試験

丹波マツタケの栽培試験は、松くい虫被害によりアカマツ林が枯れていくなかで、危機感を持った「春日町森林同好会」が、平成19年度から丹波マツタケの産地を活性化するため、兵庫県の指導を受けながら実施している。

## （4）参加者の感想文（抜粋、順不同、敬称略）

研修修了後に、参加者に研修場所ごとに「研修で学んだこと」「全体を通じて感じたこと」「今後、研修成果をどのように活かしたいか」を感想文にいただきました。

## ■（協）兵庫木材センターと丹波マツタケの栽培試験で学んだこと

### 平川 光臣

この組合は、私有地の5haに、20億円を投じて工場を建設し、年間予定販売額は20億円、原木取扱量は126千m<sup>3</sup>を計画しているとのことでした。また、異業種（森林組合、建材業者、製材業者など）の23者が心一つにして協同組合を設立されていることに驚きました。工場の特徴として、建材業者が12者いるので、そこに向けて原木を低コストで安定供給することを目針しており、最終的に製材コストの削減、高品質の製品の生産などを図っているということでした。

丹波マツタケの栽培試験では、春日町森林同好会の前会長の細見さん、前々会長の松岡さんはかなりの年齢だとお見受けしましたが、マツタケの発生に夢と希望、確信を持って活動されておられ、素晴らしいことだと思いました。マツタケの販売量は、最高100トンあったものが今では1トンになってしまっており、マツタケ発生に情熱を燃やす同好会の方々の姿勢を私達は手本にしなければならないと思いました。

今後は、林業に夢と希望を持って自分達の地方に適した方法を模索しながら林業経営を行いたいと思いました。この視察を快く引き受けて頂いた兵庫県の方々に心からお礼申し上げます。



（協）兵庫木材センター製品倉庫

### 八尋 良雄

（協）兵庫木材センターでは、木材会社との連携や、一貫した原木の収集・加工品について合理的な販売等が行われていました。特に加工品等の販売は県産材の一括管理が良くできていたと思いました。

丹波マツタケの栽培試験では、マツタケは、赤松による天然生産物しか出来ないため、近年の松くい虫被害が発生するなかで不作が続いていると聞きました。しかし、これにめげずにマツタケ栽培にバイオ技術を導入して発生が試みられていることに感銘しました。

### 内田 邦雄

（協）兵庫木材センターは、木材生産者の森林組合から製品を使用する工務店の23名の組合員で運営されており、このような工場は初めて見ました。小さな製材工場が廃業されていく中、最新の設備で低コストの製品ができていて、1回に50m<sup>3</sup>を処理する乾燥機が15基ありフル回転しており、乾燥材がいかに大切かということを知りました。



（協）兵庫木材センターの選別機



丹波マツタケの栽培試験では、「マツタケ」の自然発生が激減した中で再生に熱心に取り組まれており、植菌等根気のいる作業に取り組まれている事に感心しました。一日も早い「マツタケ」の発生を期待しています。

研修全体を通じて感じたことは、小林温氏は、先に福岡に講演に来られた大橋先生の指導で作られたとの事で、興味深く踏査しました。作業道は、急な所もありましたが、雨水が集まってできる「ホゲ」なども出来ておらず、傷んでいませんでした。今後、研修で学んだことを活かして、作業路を少しでも多く作りたいと思いました。

#### 馬男木 節

(協)兵庫木材センターの研修では、淡路島とはほぼ同面積を有する宍粟市の森林面積、木材価格が低迷する中で森林から産出される木材の有効活用をはかり、森林再生に寄与できる木材センターが整備されたのは羨ましいと思いました。計画どおり地域の基幹施設として稼働する事を願っています。

丹波マツタケの栽培試験では、春日町森林同好会が約30年の活動の中で里山整備に取り組んでおられ、十数年たった立派な若松林でマツタケの林地栽培にも取り組んでおられる話を伺い、ロマンを感じました。マツタケが採れるようになったら招待するとの言葉に、早く採れるように期待しています。

全体を通じての感想としては、小林温氏、春名善樹氏並びに加美林業研究グループ、春田林業研究グループの説明や意見交換を通じ兵庫県林業に携わる林家の皆さんの山に対する愛情を感じました。

今後、研修で学んだことを活かして間伐や除伐を実施して、森林の保全に努めたいと思います。



接種したマツタケ菌根を掘り出して説明する  
県丹波農林の維田浩之専門員

#### 別府 浩司

(協)兵庫木材センターの研修では、県産木材を安定して市場へ出すために、地域ぐるみで持続可能な循環型林業システムを構築されていることをお伺いしたり、工場が稼働している現場を見学しました。

その設立までの調整から実際に完成・稼働するまでは、多くの課題があったようですが、市場のニーズと山の施業を合体させ、その流れで関係してくる各団体が同じ目的を持って粘り強く協力してやってきた努力が、現在の姿に至ったのだと思いました。

丹波マツタケの栽培試験では、当時、実際に担当した前会長の「私利私欲を捨ててみんなのために尽くす姿勢」の言葉が全ての活動の原点だと思いました。また、マツタケの栽培試験を通して、小学校への学習支援や里山整備等も行っており、未だマツタケは発生していないということでしたが、持続してやっていくには人とひととのつながりや地元の協力、強い気持ちを持ち続けることが大切であるということ学ばせていただきました。

研修全体を通じての感想として、まずは生活していけないとどうしようもないので、利益を最大限に得るためにどうしたらいいかを考え、それぞれの地域に合ったそれぞれのやり方で実施することが大切であるということが分かりました。



マツタケ栽培に取り組む春日町森林同好会の皆さん

#### 野中 経彦

(協)兵庫木材センターの研修では、まず、スケールの大きさに驚きました。組合員23者(12者が素材業者)で平成20年4月1日設立敷地5haの広さ、総事業費20億5,900万との事でした。工場の特徴は、①原木の低コスト安定供給(素材生産業者で構成され、原木生産実行)②高品質な製品を生産(グレーディングマシンによる強度測定、マイクロ波による含水率測定)③環境への配慮(原材料の廃棄物ゼロ化、化石燃料を極力使用しない)であり最大年間原木取扱量は126,500m<sup>3</sup>でした。工場内を見学すると、実杉(みすぎ)が多いためか丸太の芯黒が多く、乾燥後のヒビ割れ、曲がり材が多く見られ、素材集めが大変だろうなと感じました。

丹波マツタケの栽培試験では、丹波市春日町のゴンロク山で春日町森林同好会の元会長様より話しを聞く事ができました。まず松食虫に強い赤松育てから始め、15年生の強い松を使って、松の根の先端を掘り起こして、接種菌を松に吸収させマツタケを発生させるという研究をされていました。一番大事な事は、いかにマツタケが発生しやすい環境を作ってやるかで松の枝が枯込まないようにと日当たりを良くするために、下刈りや枝の間引きをされていました。そのためには、一番条件の良い所は尾根より下がった5m下が最適で、マツタケが発生する為には、風通しを良くする事との事でした。必ずやマツタケは、発生すると自信を持っておられ、発生したら又皆で見に来てくださいとの事、現実すればこれは画期的な事だと思いました。



木屑を燃料とする乾燥機

今後、まずは、加美林業研究クラブの携帯型GPSを使った森業施業計画作りを参考にしたいと思いました。

## ■小林 温ぬ氏の林業経営とで学んだこと

山口 忠人

小林 温氏の林業経営では、110haの所有林と隣接する山林管理を含め320haの山林を持続的な森林経営の基盤となる崩れない道を作る路網整備から始められていました。高性能林業機械の導入なども行い、しかも家族経営であり、これが現代の森林経営の見本だと思いました。

研修全体を通じての感想は、福岡県各地区の林研グループの皆さんが交流会で活発な意見交換をされていることに感心致しました。

また、八女地区と比較して、兵庫の山には立枯が全くなく品種選定の必要性を感じました。さらに、研修中に、地元の方から鹿の被害が多いので今後皆伐しても植林は無理だとの話を聞きました。八女地区でも鹿被害の事前対策の必要性を感じました。

福富 司

小林 温氏は、作業道を入れ間伐材を出して収入にし、近所の山林も作業道や間伐を受託して収入も得て、なおかつ人にも喜ばれていました。個人経営的林業でも、作業受託をする事によって大型機械を買っても経営を成り立たせておられ、しかも健全な山を作り、優良な木を育ておられました。

試行錯誤もあったと思いますが、深い洞察力と地味な努力によって、自分の考えに合った生き方をされている事を学びました。

研修全体を通じて感じたことは、兵庫県には、今時、個人レベル的林業で専業の人はほとんどいないと思っていましたが、山で生計を立てておられる方がいる事に驚きました。



小林 温さんから作業道の説明

その時々流行ではなく、土地に合った植林、自分の考え方や生き方にそった山作り、そういう事を実践している人がいる事に驚き感心しました。今後の木材の使われ方や、自分が育てている木がどのように使われるのか、それに合わせた木をどう育てていくか、真剣に考えておかないといけなと感じました。そして、ただ木を育てても経営的に成り立たないことも理解しました。

私は、兼業農家の片手間に時折山仕事をしていますが、今後、森林が自然や環境のためになっていると



漠然と考えるのではなく、祖先が植林した木や自分が植えた木が将来人の役に立つ日が来るのだと、また役に立つように育てていくのだと、気持ちを新たにしていきたいと思えます。

#### 高木 重幸

近年、林業経営は皆伐、再造林の施業から成林した森林の整備を兼ねた搬出間伐や長伐期大径木の育成にシフトしています。小林氏の提唱する「壊れない作業道づくり」は、作業道が単発的な使用から、永年の使用に耐える安全な路網へと変化したものでした。特に氏は、道づくりでは、水切り（水の通りを読み、水の影響を少なくする）と作業のやりやすい道づくり（切取法面の高さを制限する。幅員は最小限に）だと強調されていました。

今回の研修は、非常に有意義な研修でした。生産森林組合の取組や林研諸氏の活動等、福岡の生産森林組合、各林研も見習うことが多かったのではないかと思います。

今後、私も福岡市民として福岡市の林業行政に市民提案を行っていききたいと思います。



小林 温さん作設の壊れにくい作業道

#### 守田 和幸

今回の研修で、小林氏の山林を視察させて頂き、壊れない作業道作りのポイントを学びました。何よりも大切な事はコースの選定であり、コースが決まれば自然と道が出来ると息子さんが言っておられました。

また、排水施設を設置しないという事を伺い、路面崩壊はないかと疑問に感じましたが、そこはさすが大橋式作業道！、台風でも壊れなかったと伺い、たいへん驚きました。

また、兵庫県の林研グループが、重機を所有しており高密路網整備やGPSを使用した作業道開設予定路線の踏査に力を注いでいる事に驚きました。そして、造林事業の補助金申請を単位林研として申請するなど、意欲の違いを感じました。

今後、研修の成果を活かして、施業プランナーのサポート体制を作り、施業集約化をスムーズに進めていきたいと思えます。

#### 吉村 幸一

小林氏の林業経営の基本は、大橋慶三郎氏の指導を受けた「壊れない道づくり」で、幅員2.5m、直切高1.4mまででヘクタール100m以上の路網開設でありました。また、小林氏の山林経営は、所有林110ha、隣接する氏自身が組合長を務める生産森林組合等の受託と併せて320haを管理しておられました。私自身も、作業の効率化、作業コスト低減のための列状間伐が推進されつつある中で、小林氏の「壊れない道づくり」による路網整備と、定性間伐の実施による長伐期優良大径材生産を目標としておられました。

また、小林氏の親子で行う山林作業の様子等は、林業新知識2008年7月号の紙上で紹介されていましたが、さらに今回の視察では、小林氏と息子夫婦の三人で山仕事をされており、うらやましく感じました。



小林 温さん親子

#### 柳田 正夫

小林 温氏の林業経営は、一言で言うと「ものすごいこだわりを持った人」全く林業の知識の無かった人が現在に至るまでには相当の努力と苦労がないと成し得なかったと感じました。身を投じた林業に熱意と、こだわりを持って取り組んで来られたことに対して同業者として感心しました。

研修全体を通じての感じたことは、事前に用意して頂いていた資料は行くまでに何度か目を通していましたが、実際研修地で会った小林さんや、春名さんの生の声を聞き、大変感動しました。かなり強行スケジュールの感もありましたが、中身の濃い研修であったと思えます。

今後、今回の研修成果を生産森林組合に即活かせるとは思いませんが、まず学んだ事は理事会に報告し、一人ひとりの理事が自分の山をどの様に経営して行ったらいいか伝えたいと思います。

## ■ 春名善樹氏の林業経営で学んだこと

### 大山 武英

春名善樹氏の林業経営からは、長伐期大径材を生産するためには、長期にわたる管理が必要であり、近年、材価が安くて伐期を延ばしている長伐期施業とは目指すゴールが違うことを教えられました。

だから、長伐期大径材生産では、残す木に傷を付けてはならないことなど、森林組合職員としてではなく、一人の林家として共感できました。

全体を通じての感想としては、大変密度の濃い研修で、三日間を通して兵庫県の多くの林業関係者に出逢う事ができました。そして、皆さんが林業に対して強い信念を持って取り組んで来られることに感銘しました。

### 古賀 慶一郎

春名善樹さんの話を聞き印象に残っているのが、間伐を繰り返し大径木を作っているとということでした。また、もう一つは、作業道のほぼ全線を自力で舗装をされているということでした。私の地元では、個人でこのような取り組みをされている森林所有者はいないので感心しました。



指導林家会長の春名善樹氏

### 栗山 隆博

春名氏の長伐期林業を目標にした林を近く見る事ができなかった事は残念でした。山の麓からでしたけど、春名氏の杉山をみると90年~100年生の杉とはとても思えないような穂先が丸くなく三角の穂先をしているのに驚きました。

また、春名氏が作業道の急カーブを嫌うのは16mという長尺材を林内作業車で出す為であるという説明を受け、なるほどと思いました。

さらに、北はりま森林組合の施業集約化事業の取り組みには大変興味深く聞き入りました。今後、今回の研修で学んだ壞れにくい作業道の開設をもう少し自分なりに考え、さらに勉強していきたいと思います。

### 津田 健志

私は、春名さんから長伐期経営のノウハウを学びました。

長伐期経営をする場合に、一番重要なことは「自然災害に強い場所を選ぶこと。」と言われていました。場所、品種、地味、地形等を考慮して長伐期に適した山を育てる熱意には、感銘を受けました。

このような努力があるからこそ、春名さんの木材は地元の木材市場において高値で取引されているのだと思います。私も春名さんを見習い、日々自分で考え行動し、熱意を持って業務に励みたいと思います。

今回のフォレスト・フレンズでは、林業に従事されている方や林業研究グループの方等の森林・林業に対する熱意を強く感じました。林業活性化のためには、森林組合、林業従事者、行政等が一体とな

なって進めていくことが重要です。私も林務担当課の職員として、今回研修でお世話になった方々に恥ずかしくない仕事をし、林業活性化に貢献したいと思います。



春名善樹氏の自宅から所有山林を遠望

### 高田 克實

春名氏の山林経営は主に優良大径木を作っておられました。私の山は、小規模でまだ50年生~75年生位ですのでまだ先の事ですが、春名氏のように適地適木で大径木作りを目指したいと思います。

全体を通じて小林氏の間伐や作業道の作り方の考え方には勉強になりました。また、小林氏、春名氏とも、それぞれ家族で経営されているのすごいいました。



今後、研修で学んだ作業道の作り方、間伐木の選木、適期、年輪の幅の均一等を目標として、後期高齢者になりますので、ゆっくり作業をやって行きたいと思います。

#### 能美 俊夫

春名善樹氏の林業経営研修では、先ず、春名氏の茅葺き家屋に圧倒されました。今なお、竈（かまど）でご飯を炊き、薪で風呂を沸かす暮らしを守り続けている姿は、そのまま持続的な林業、先の時代に良い美しい山を残すという努力につながっていると感じました。

また、3・11の大地震と原発事故を契機に、全国に「これまでの暮らし向き」を問い直そうという気運が高まっており、こうした時に、春名氏の暮らしや生業には、大きな示唆があったと思いました。広葉樹の自然林と針葉樹がゾーニングされた美しい山と、「自分だけの満足だけでなく、誰が見ても美しい山を残したい。」と語る氏に感動しました。私も、皆で楽しめる森を作るように頑張りたいと思います。

### ■北はりま森林組合の山づくりと加美林業研究グループの活動から学んだこと

#### 小河 啓雄

加美林研は、自分達で、森林施業計画を作成し、町長の認定を受けている事は素晴らしい事だと思いました。さらに、林研で造林事業の補助金申請も出来、GPSを使用した講習会も開催していました。うきは市林業研究グループも、このような取り組みを目標にして頑張りたいと思います。

#### 真田 隆明

北はりま森林組合の山づくりでは、森林組合職員の一人ひとりが目標を持って組織で動いてある事が素晴らしいと思いました。また、加美林研は、地域の所有者と一体となって山林台帳施業図等を整理されている事が素晴らしく、頭が下がりました。

今後、今回の研修で学んだ小林氏や大橋氏式の崩れない作業道を私も開設したいと思います。また、マツタケ栽培の取り組みの熱意に感動しました。私も「ひょうご元気松」を30本植え、5年～10年後マツタケ栽培菌を植えつけてみたいと思いました。

#### 中島 嘉門

北はりま森林組合では、「森林は県民共有の財産。」との認識のもと、地域森林整備の取組として森林プランナーが主体となった団地計画化による森林組合提案型間伐施業等の積極的な取り組みが行われていました。

また、加美林業研究グループでは、林業低迷化で森林に対する感心が薄れるなかで、GPS活用による森林管理を導入され、森林に対する意識改革、森林・林業の活用化を図られていることに関心しました。

研修全体を通じて感じたことは、林業低迷により林業に関する意識が希薄化する昨今、林業再生に向け様々な積極的取り組みの実践を知ることができ、非常に有意義な研修でした。

#### 吉村 正春

北はりま森林組合の山づくりから学んだことは、一人の施業プランナーの信頼と頑張り。それを我慢強くサポートする上司（参事）の存在。やっぱりこの二点が大事だと感じました。成功の秘訣は「成功するまで決してあきらめないこと！」と言うけどその良い例でした。



北はりま森林組合施業プランナーの藤田和則氏



加美林研（中央：中川武会長）の皆さん



加美林業研究グループの活動から学んだことは、いかに諸条件が整ったからといって、一林研が施業計画作りから森林警備までを全てやるのは簡単ではなかっただろうと思いました。

全体を通じての感じたことは、兵庫の林業から元気をもらいました。特に、春名氏の築160年程の茅葺きの自宅と庭から視野一杯に広がる彼の山は圧倒的でした。

#### 倉員 明弘

北はりま森林組合では、森林施業プランナーによる集約間伐の取り組みを行い、まとまった材の搬出が積極的に行われていました。この集約化では、森林所有者と委託の同意書を取るのに相当苦勞されたと言う事でしたが、まったく山に関心が無い森林所有者への粘り強い説明など、森林所有者の理解を得るための取り組みにはとても勉強になりました。又、森林施業プランナーとしての心境や失敗談など、これまでの色々な体験の話聞いて、やはり周りのフォローが必要であり、一人ではなく皆が同じ意識で取り組まなければ出来ないとと思いました。

加美林業研究グループは、GPS機器やパソコンもグループで所有されており、森林整備に積極的に取り組んでおられる姿はとても刺激的になりました。全員共同で林業施業計画を樹立し、市町村より認定を受けて補助金の交付申請も自分たちで行っていました。会員には元森林組合職員、測量技師、素材業者、また、山林を持たない若いメンバーもおられ、きちんとした役割分担ができていました。今後この研修で得た知識を参考にして、これからの森林整備に生かして行きたいと思います。



兵庫県森林林業技術センターでの意見交換・交流会

## 2 平成24年度林業改良普及協会会員の募集

福岡県林業改良普及協会では、「新規会員」を募集しています。会員の方には、「林業新知識」を毎月お届けし、森林や林業に関するタイムリーな情報を提供しています。

(1) 年会費 特別会員12,000円、普通会員2,000円

(2) 主な特典 (\*は特別会員のみ)

①森林・林業情報誌「林業新知識」を毎月届けます。

②全国林業改良普及協会が発行する図書が割引価格で購入できます。

\*③「現代林業」(年4,500円相当)を毎月届けます。

\*④全国林業改良普及協会が毎年発行する「普及双書」(3冊組3,300円相当)を配布します。

(3) 申し込み・問い合わせ先

福岡県林業改良普及協会 電話:0942-45-7868 FAX:0942-45-7901

### 編集 後記

沢山の感想を編集していると、研修の感動が良く伝わってきて、企画した者として大変うれしく思いました。このような有意義な研修ができましたのも、今回の研修でご案内いただいた兵庫県の大前隆司専門技術員をはじめ関係者皆様のおかげであると深く感謝しております。(元村)

- 編集発行 福岡県林業改良普及協会(福岡県森林林業技術センター内)  
〒839-0827 福岡県久留米市山本町豊田1438-2 (電話)0942-45-7868
- 発行日 平成24年2月